

第3章 地域福祉の現状と課題

1 地域環境

○ 文京区の地理的特性

文京区は東京 23 区の中央部に位置し、中心区として利便性に富んだ特性を持っています。面積は 11.31 km²で、23 区中 20 番目の広さです。

地形は坂と崖が多く起伏に富み、台地は主に住宅地であり、低地は商工住の混在した地域となっています。

○ 「文教のまち」としての文京区

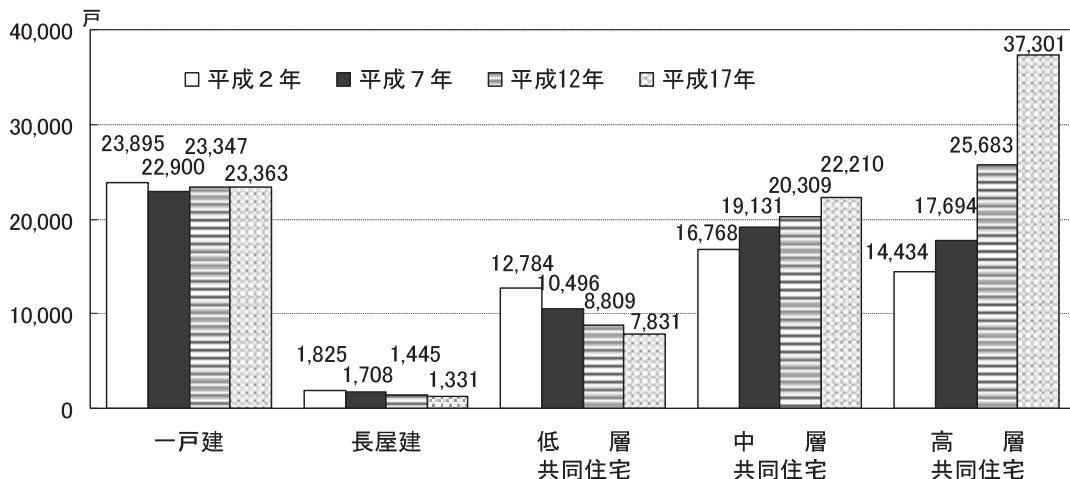
江戸時代には、大名屋敷や武士の邸宅が建てられ、神社仏閣が多数建立されたことが、現在のみどり豊かな環境の基盤となっています。

明治期に入ると、湯島の昌平坂学問所を引き継ぐ形で学校群が作られ、本郷界隈を中心に、学者・文化人が多く住むようになり、「文教のまち」としての特徴が形成されました。

○ マンション等の増加による居住形態の変化

近年の傾向として、中・高層共同住宅の増加傾向が継続しており、住宅総戸数に対する中・高層共同住宅が占める割合は平成 2 年には 44.8%でしたが、平成 17 年には 64.7%となっています。

【図表】 3-1 住宅の建て方別割合



* 共同住宅は、低層が 1、2 階、中層が 3～5 階建、高層が 6 階建以上。

資料：国勢調査

2 少子化・高齢化の現状

○ 人口増加の傾向と住民基本台帳ベースの人口

区の人口は、昭和38年以降減少を続けてきましたが、平成10年の後半から増加に転じました。その後、人口は毎年増加を続け、住民基本台帳上の人口は、平成20年1月1日現在、昭和63年とほぼ同じ185,782人（外国人登録者数は、6,933人（外数））となっています。

○ 少子化・高齢化の現状と人口構成

人口構成は、昭和60年には、年少人口が30,461人（構成比：約15.8%）、高齢者人口が22,946人（構成比：約11.9%）でしたが、平成2年には高齢者人口が年少人口を上回るようになりました。その後、少子化・高齢化は進行し、平成20年には、高齢者人口は昭和60年の約1.58倍、逆に年少人口は約0.63倍になりました。平成14年以後、年少人口は微増傾向に転じ、さらに平成17年には年少人口の構成比も微増傾向に転じています。

【図表】3-2 年齢3区分別人口（構成比）の推移



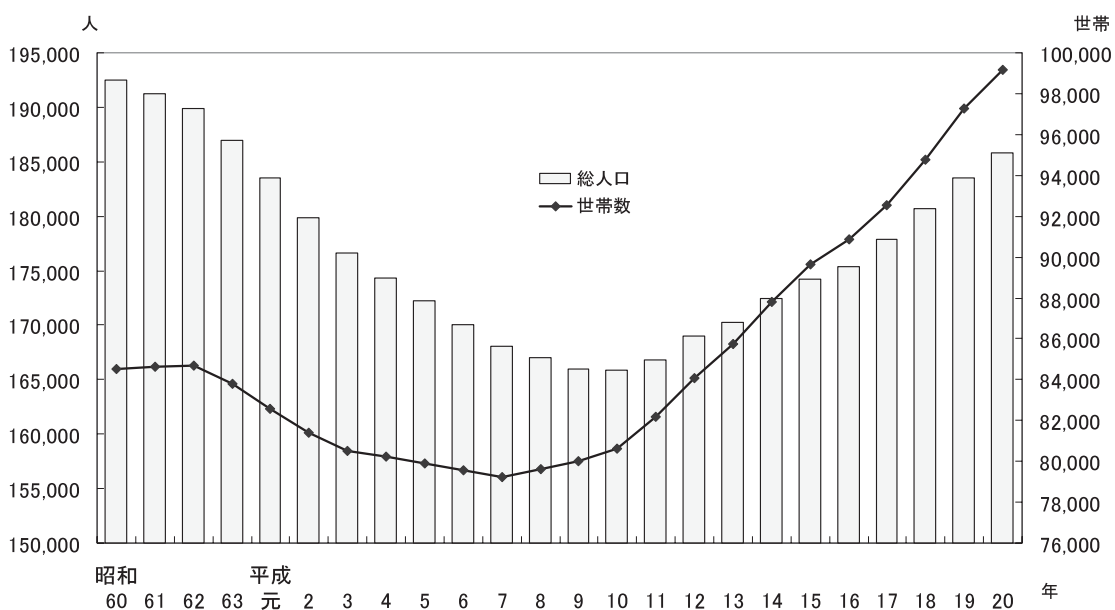
3 世帯状況の変化

○ 世帯数の増加と一世帯当たりの人数の減少

区の世帯数は、住民基本台帳上（いずれも1月1日現在）昭和60年に84,539世帯であったものが、平成20年には99,154世帯となっています。

この間、人口は減少から増加に転じましたが、一世帯当たりの人数は昭和60年の2.28人から平成20年の1.87人へと一貫して減少を続けています。

【図表】3-3 人口と世帯数の推移



年 度	昭和60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年
総人口	192,459	191,225	189,881	186,960	183,482	179,812	176,644	174,287	172,270	170,097	168,050	166,973
世帯数	84,539	84,615	84,685	83,787	82,569	81,375	80,506	80,234	79,896	79,543	79,211	79,606
一世帯当たりの人数	2.28	2.26	2.24	2.23	2.22	2.21	2.19	2.17	2.16	2.14	2.12	2.10

年 度	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総人口	166,025	165,864	166,847	168,979	170,275	172,419	174,183	175,421	177,843	180,667	183,491	185,782
世帯数	79,996	80,645	82,167	84,089	85,739	87,810	89,620	90,841	92,543	94,756	97,277	99,154
一世帯当たりの人数	2.08	2.06	2.03	2.01	1.99	1.96	1.94	1.93	1.92	1.91	1.89	1.87